

Quarterly Journal of Seismology

Vol. XXXII

驗震時報

第 32 卷

昭和 43—44 年

氣 象 庁

Published by the Japan Meteorological Agency
Tokyo

1968—1969

第32巻 総目次

第1号

斎藤 寛：白河の地震記象からみた地震活動域について.....	1
佐田喜雄・加藤公司：帯広の観測資料からみた北海道周辺の 地震活動域について	9
宮内民人：長野の地震記象型及び験測結果からみた地震活動域.....	17

第2号

田中康裕：噴煙現象の統計（第1報）	27
釧路地方气象台：昭和40年8月31日弟子屈付近に起こった地震について.....	51
吉岡虎雄：福井の観測資料からみた地震活動調査.....	63

第3, 4号

田中康裕：噴煙現象の統計（第2号）（爆発噴煙）.....	79
田中康裕：噴煙現象の統計（第3号）	91
長宗留男・横山泰孝・須賀盛典：旭川および根室で観測される小地震・検知能力 マグニチュード (m) の決定.....	103
清水邦夫：桜島火山の爆発に伴う群発微小地震について.....	117
浜松音蔵：地震災害の場，地震の規模と災害量 —地震災害の統計的研究（1）—.....	129
浜名 宏：マグニチュードを求める式の係数 α について.....	141
橋本公司：秋田市の震度分布について.....	145

Vol. XXXII Contents

No. 1

H. Saito: Investigations of Seismic Activity from Seismograms Obtained at Shirakawa.....	1
Y. Sada, K. Kato: Investigations of Seismic Activity from Seismograms Obtained at Obihiro.....	9
T. Miyauchi: Investigations of Seismic Activity from Seismograms Obtained at Nagano	17

No. 2

Y. Tanaka: Statistical Analysis of Volcanic Smoke (Part 1).....	27
Kushiro L.M.O.: On the Earthquake occurred near Teshikaga.....	51
T. Yoshioka: Investigations of Seismic Activity from Seismograms Obtained at Fukui	63

No. 3, 4

Y. Tanaka: Statistical Analysis of Volcanic Smoke (Part 2) (Explosion Smoke)	79
---	----

Y. Tanaka: Statistical Analysis of Volcanic Smoke (Part 3).....	91
T. Nagamune, Y. Yokoyama and M. Suga: Small Earthquake, Detection Capability and Magnitude (m) Determination at Asahikawa and Nemuro	103
K. Shimizu: A Study of Volcanic Micro-Earthquake Swarm Accompany with Explosion of Volcano Sakurajima.....	117
O. Hamamatsu: The Field of Earthquake Disaster in Japan, Relation between the Earthquake Magnitude and the Damage —Statistical Studies on Earthquake Disaster (1)—.....	129
H. Hamana: On the Coefficient “ α ” determining Magnitude of Earthquakes	141
K. Hashimoto: On the Areal Earthquake of Seismic Intensity in the Central Area of Akita City.....	145

「験震時報」投稿上の注意事項

- (1) 報文は原稿用紙に横がきではっきりと書き、当用漢字新かなづかいを用いる。句読点、は1字分あけ、数字はアラビア数字とする。記号 a と α と d 、 C と c 、 e と l と ρ 、 0 と O と σ 、 r と γ 、 S と s 、 W と w 、 Z と z と 2 、などはまぎらわしいから特にはっきり書く。
- (2) 論文の長さは当分のあいだ付図を含めて刷り上がり8ページ以内、ただし、付図は刷り上がり合計3ページ以内とする。
- (3) 報文が論文の場合、その初めに欧文の題目および内容要約をつけ、図、写真および表の説明は欧文とする。報文が報告の場合は欧文の題目をつける。
- (4) 付図は濃いすみで、ていねいに描き、むだな余白のないようにする。図中の文字は縮めても、小さくなりすぎないよう大きめに書く。注や説明はわく外に活字に組めるようにする。
- (5) 写真は鮮明なもので、変色やよごれのないものにかぎる。
- (6) 欧文題目、内容要約および原稿中の欧文は活字体でわかりやすくかく、欧文題目、内容要約は、できればタイプライターで打つ。

昭和44年9月25日印刷

昭和44年9月30日発行

編集兼 気 象 庁
発行人

東京都千代田区大手町一ノ七

印刷者 花 崎 実

東京都中央区月島4丁目6-3号

印刷所 大東印刷工芸株式会社

東京都中央区月島4丁目6-3号